

「早めの運行依頼」、「生産者の持ち込み締め時間の徹底」、「荷造り方法の教育・作業員の配置」、「集荷の分担」「出勤時間の後倒し」、「到着時間の連絡による着側での荷受人の配置」、「パレット輸送」 秋田県

1. 実施者の概要

- 発荷主企業: 全国農業協同組合連合会秋田県本部
秋田県内 JA 15箇所、センター3箇所
- 元請運送事業者: 全農物流(株)秋田店: 米の輸送(主な事業内容)
- 運送事業者
 - 運(1) (有)石田運輸商会: 生鮮食品、チルド・冷凍食品の輸送
 - 運(2) 羽後運輸(株) : 生鮮食品、引越し荷物の輸送
 - 運(3) (株)秋田市場運送 : 生鮮食品の輸送、市場荷受け及び荷役事業
- 着荷主企業
 - 着(1) 東京シティ青果(株): 青果物及びその加工品の受託販売・購入販売
 - 着(2) 横浜丸中青果(株)
 - 着(3)-1 (株)大田花き: 花き及びその加工品の受託販売・購入販売
 - 着(3)-2 (株)南関東花き園芸卸売市場: 取扱品目 切花/鉢物/園芸資材
- 荷種: (1)(2) 青果、(3) 花き

2. 事業概要

➤ (1) 秋田県北～築地市場

<現状の課題>

- ① 運行依頼の遅れ
- ② 集荷場所における生産者持ち込み締め時間の遅れによる手待ち時間の発生
- ③ 各集荷場所の積荷形態の違いによる荷積み時間の長さ
- ④ 遠い南西から北方面(事業所近辺)に集荷している

<<実証実験>>

- ① 対象運行の前日14時までに確定し運送事業者へ連絡
- ② 生産者持ち込み締め時間の徹底
- ③ 各JAの荷造り方法の教育、作業員の配置
- ④-1 JA秋田やまもとの集荷を分担
- ④-2 出勤時間の後倒し

➤ (2) 秋田県南～横浜市場

<現状の課題>

- ① 園芸センター等での荷役時間の長さ(生産者からの荷受け待ち、荷造り準備待ち)
- ② 集荷箇所数が多く、北西に集荷後、南下する運行で時間を要している
- ③ 市場混雑時の手待ち時間の長さ

<<実証実験>>

- ① 各JAの荷造り方法の教育、作業員の配置。
- ②-1 JAふるさとの集荷を分担
- ②-2 出勤時間の後倒し
- ③-1 到着時間の連絡
- ③-2 到着時間の連絡による荷受け人の配置
- ③-3 混雑曜日を避けた運行

➤ (3) 秋田県央～厚木所在の市場、大田市場

<現状の課題>

- ① 荷受け先での荷受け体制が整っていない場合があり荷役に時間を要する
- ② シートパレット崩し、手積み・手降ろしのため荷役に時間を要する

<<実証実験>>

- ①-1 到着時間の連絡
- ①-2 着側での荷受人の配置
- ② パレット輸送

3. 主な課題

- (1) ・集荷箇所数が多い、各JAの積み付け(出荷準備)が統一されていない、生産者の持ち込み締切時間が守られていない等、荷積み開始から終了までの時間は2時間を超えている。
・運行依頼が遅く運行計画が立てづらい。
- (2) ・集荷箇所数が多い、各JAの積み付け(出荷準備)が統一されていない等、荷積み開始から終了までの時間は6時間弱となっている。
- (3) ・荷降ろしの際、ドライバーが1人で対応することもあり、荷降ろし時間は2時間を超えている。

4. 事業内容

- ・発荷主、運送事業者、着荷主の事前調査を実施し、その結果を踏まえ、さらに聞き取り調査や荷積み、降ろし先の市場の実態調査等を実施した。
- ・調査結果から具体的な対応策を発着荷主、運送事業者とともに検討した。

5. 結果

- (1) 拘束時間は集荷箇所と配送先の工夫により3時間程度短縮、また、荷積み開始から終了までの時間は30分程度短縮した。
- (2) 拘束時間は集配箇所数の削減により2時間程度短縮、また荷積み開始から終了までの時間は3時間以上短縮した。
- (3) 厚木所在の市場での荷受人の配置の効果が大きく、拘束時間が1時間30分程度短縮した。大田市場とのパレット輸送は事前調査時も荷降ろし時間が数十分であったため大きな効果は出なかったが、今後のパレット輸送の課題(パレットサイズ、箱の規格統一、ラップ巻きによる結露)が浮き彫りとなった。

参考:手積みと比較して68%程度の積載率となる。

(花きのパレット輸送の積載率想定 大型車:35C/S×パレット14枚=490C/S≒68%)

6. (1) 発荷主企業のメリット

- ・各JA内組合員への教育により、作業効率が向上する。
- ・運送事業者の課題を各JAに共有し改善を図ることで安定した輸送力の確保につながる。

6. (2) 運送事業者のメリット

- ・取引環境の実態を発着荷主と共有し、改善に向けた一歩を踏み出す。

6. (3) 着荷主企業のメリット

- ・市場が望んでいる秋田県産の園芸品が、輸送力の確保により安定供給される。

7. 結果に結びついたポイント、できなかった要因等

- (1),(2) 発荷主企業において各JAへ今回の事業の意図が伝わっておらず、荷造り方法の教育や作業員の配置等の実証実験が行えなかった。今後は今回のパイロット事業結果等も活用し、各JAへの教育や生産者への周知により、荷積みの効率化を図る。
- (3) 運送事業者と着荷主との連携がスムーズに行えた。
・今回のパイロット事業により、発荷主、運送事業者、着荷主が相互に意見交換する場ができたことにより、トータル的な取引環境改善に寄与する。